

・内部障害・疾患 ハート・プラスマークについて

Q. 内部障害・疾患は目に見えず、周りの理解が得にくい。車椅子のデザインマークは、車椅子の人しか使ってはいけない、というような間違った認識をしている人が多く、内部障害者は使用しにくい。

区のホームページには、ハート・プラスマークがないが、窓口で対応しているのか。たくさんのマークが世の中に出回っているが、ハート・プラスマークは認知度が低いように思える。是非、ハート・プラスマークを多くの人に知ってもらいたい。ホームページ、ポスター、優先駐車場の案内板等、区でも何か取り組んで欲しい。

A. 内部障害が周りの方から理解しにくいことは、区でも認識しており、理解を促進するための取り組みをしております。ハート・プラスマークは、本庁舎の「だれでもトイレ」扉への掲示や「障害者福祉のしおり」に障害者に関するシンボルマークの一つとして掲載し、理解と普及を促しているところです。

一方、障害者に関するシンボルマークは多数あり、似たようなデザインもあるため、わかりにくさを指摘する声もあるところです。このため東京都が中心となり、都内全域で配慮を必要とする方が共通に所持する「ヘルプカード」の作成に取り組み、区でも作成・配布を行っているところです。

今回、お寄せいただいた声を参考としながら、障害者への理解をさらに広めていけるよう努めて参ります。

(福祉部障害者福祉課)